

コスタリカ内政・外交定期報告(2026年5月)

【ポイント】

外交

●インド大使館の開設

内政

●チャベス大統領、最後の国会演説

●フェルナンデス新政権の閣僚決定

●フェルナンデス大統領就任式

外交

●インド大使館の開設

9日、就任式出席のためコスタリカ訪問中のパビトラ・マルゲリータ印外務・繊維閣外大臣が主催したレセプションにおいて、駐コスタリカインド大使館の開設が正式発表された(現在は駐パナマインド大使館がコスタリカを管轄)。これは、Feujilによる投資を含む印テクノロジー企業の誘致を目的としたものである。

内政

●チャベス大統領、最後の国会演説

4日、チャベス大統領は国会において最後の演説を行い、自身のいくつかの公約(シウダ・ゴビエルノ(政府都市)、リモン港ターミナル建設、クルシタス事案(ニカラグア国境地域での鉱物不法採掘)等)を果たせなかったと述べた。同時に、自身の任期中において、対GDP比債務が減少し、失業率が低下したことや、インフレ抑制による経済的成果、道路インフラにおける進捗も主張した。また、麻薬組織犯罪へも対抗したことなど治安面での成果も強調し、「変化の継続」のための熱烈な呼びかけをもって締めくくられた。

●フェルナンデス新政権の閣僚決定

5日、フェルナンデス新大統領は、自身の閣僚を発表した。チャベス前大統領は、大統領府大臣及び財務大臣に就任した。ドグラス・ソト第二副大統領は駐米大使も兼任する。新外務大臣には、前貿易大臣のマヌエル・トバル氏が就任。総じて前政権時と同ポストの続投または閣僚内での入れ替えが多い。

●フェルナンデス大統領就任式

8日、フェルナンデス大統領就任式が行われた。日本からは、4年前の大統領就任式に続き西村康稔議員が特派大使として出席。就任式には、フェリペ6世・スペイン

国王陛下、アビナデル・ドミニカ共和国大統領、ムリーノ・パナマ大統領、カストロ・チリ大統領、アスフラ・ホンジュラス大統領、ヘルツォグ・イスラエル大統領、アレバロ・グアテマラ大統領、ウジョア・エルサルバドル副大統領等が出席した。フェルナンデス新大統領は演説において、自身のスローガン「変化の継続」を訴えるとともに、麻薬組織犯罪への対抗、行政改革、インフラ整備への野心を露わにした。また、チャベスと敵対する最高裁判所長官、最高選挙裁判所長官、会計検査院長、野党のクラウディア・ドブレス議員及びホセ・マリア・ビジャルタ議員が紹介された際には観客からブーイングが起こった。